

平成 28 年 2 月 9 日

## 水と土の芸術祭 2015 実行委員会 第 4 回総会 報告書

新潟市西区自治協議会  
会長 岩 脇 正 之 様

西区自治協議会委員 大 谷 一 男

去る 2 月 9 日（火）、新潟市役所本館 6 階講堂において開催された「水と土の芸術祭 2015 実行委員会第 4 回総会」に出席したので、その概要を下記により報告します。

実行委員長の篠田昭新潟市長から、「水と土の芸術祭 2015」は、さまざまなアートやプロジェクトを通して、新潟の自然や文化芸術といった魅力を発信していただいた。各プロジェクトのレベルも高く市民力を高めるうえで大きな成果があった。また、東アジア文化都市のメイン事業として日本、中国、韓国との文化交流にも大きく寄与した旨の挨拶があった。

引き続き、「新潟市の潟を鳥の眼で訪ねる旅」と題した、新潟市の潟(湖沼)16 か所を紹介する空撮のビデオ上映があった。西区の紹介は以下のとおり。

- ・ 佐潟(さかた)  
上潟と下潟の二つから成る潟。周辺湿地部分を含めてラムサール条約に登録。  
所在地：赤塚
- ・ 御手洗潟(みたらせがた)  
佐潟の北側にある潟。近くの神社に参拝する際に手を洗い身を清めたことに由来。  
所在地：赤塚
- ・ ドンチ池(どんちいけ)  
土地や水の権利をめぐり争われた所「論地(ろんち)」が訛ったと伝えられている。  
所在地：中権寺
- ・ 金巻の池(かねまきのいけ)  
堤防が破堤してできた池(治水地形分類図では落堀という)。地元では「水戸際池」、「山佐池」、「宮池」、「木場池」などと呼ばれている。  
所在地：木場・金巻

続いて議事に入り、次の議案が諮られた。

議案 1 号 水と土の芸術祭 2015 実行委員会会則の改正(案)について  
第 4 条別表の農業団体中

「新潟市農業協同組合 豊栄農業協同組合」とあるのを  
「新潟市農業協同組合」に改める。

(事由)

合併に伴い実行委員会の団体数 63 を 62 に改める。施行日は平成 28 年 2 月 1 日。

議案 2 号 水と土の芸術祭 2015 事業実施報告書(案)について

事務局から詳細な説明があった。

平成 28 年 1 月 26 日開催の第 10 回西区自治協議会本会でも報告された。

なお、4 人のディレクターから「新潟の自然との共生に関心が高まっていた」「潟をテーマにした新潟の独自性を誇りたい」「地域の個性特性を生み出す意味で成果があった」「潟カフェでは地元の方々との交流が財産となり参加者の満足度が高かった」といった評価が述べられた。

議案 3 号 実行委員アンケートの取りまとめについて

アンケート結果について、事務局から詳細な説明があり、第 4 回の「水と土の芸術祭 2018」につなげていくことを確認した。

なお、アンケートの資料については 2 月 25 日(木)開催の第 11 回西区自治協議会本会で報告の予定。

以上の議案は、何れも承認された。

最後に、以下のシンポジウムと「水と土の芸術祭 2015」を振り返ってのフォーラムの紹介があった。

日時 平成 28 年 2 月 20 日(土) 14:00~17:00

場所 新潟市民プラザ

内容 「潟」シンポジウム 基調講演、パネルディスカッション

日時 平成 28 年 2 月 27 日(土) 13:30~16:30

場所 ビュー福島潟展望ホール

内容 市民企画「連続市民フォーラム」基調講演、トークセッション

日時 平成 28 年 3 月 19 日(土) 13:30~16:30

場所 小須戸まちづくりセンター

内容 市民企画「連続市民フォーラム」基調講演、トークセッション

日時 平成 28 年 3 月 26 日(土) 13:30~16:30

場所 クロスパルにいがた 5F 交流ホール

内容 市民企画「連続市民フォーラム」基調講演、トークセッション

なお、閉会挨拶で篠田新潟市長は、次回の「水と土の芸術祭 2018」は、新潟港の開港 150 周年で盛り上げたい旨を述べていた。

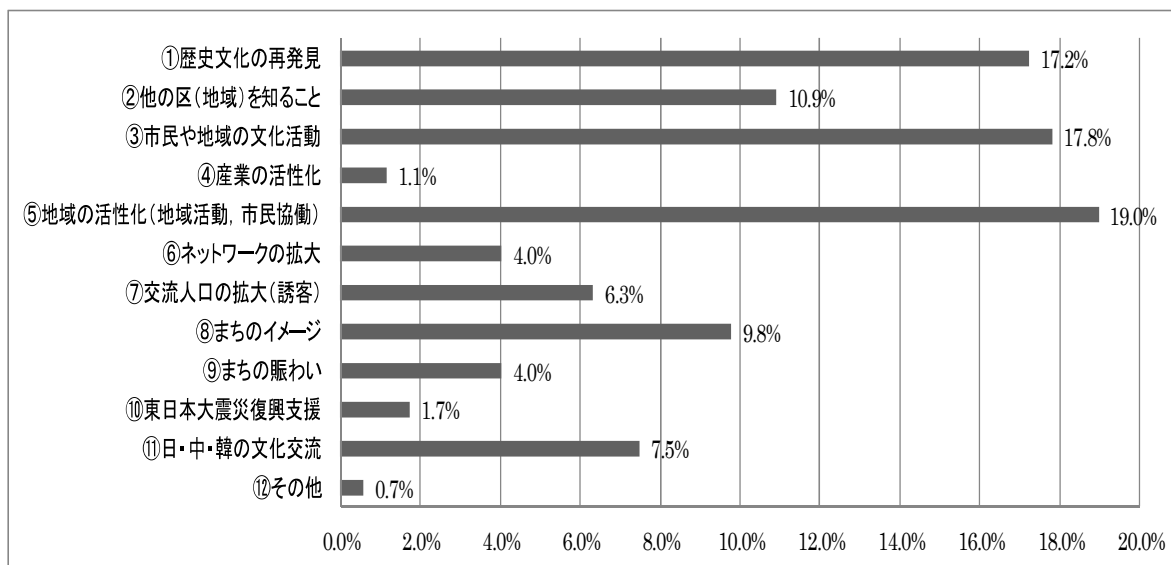
次回の第 5 回総会は 5 月下旬の予定。

以上

実行委員アンケート取りまとめについて  
 (回答数 50)

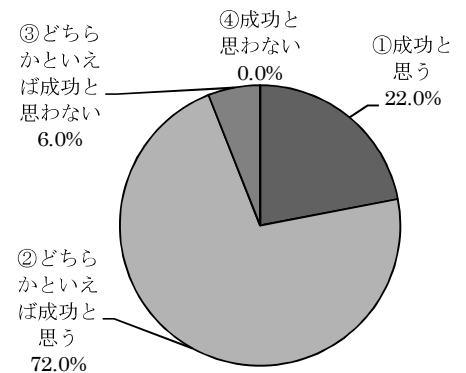
(1) 水と土の芸術祭の開催によって、本市にプラスだったと思うものは何ですか？  
 (複数回答可)

項目	人数	割合
①歴史文化の再発見	30名	17.2%
②他の区(地域)を知ること	19名	10.9%
③市民や地域の文化活動	31名	17.8%
④産業の活性化	2名	1.1%
⑤地域の活性化(地域活動, 市民協働)	33名	19.0%
⑥ネットワークの拡大	7名	4.0%
⑦交流人口の拡大(誘客)	11名	6.3%
⑧まちのイメージ	17名	9.8%
⑨まちの賑わい	7名	4.0%
⑩東日本大震災復興支援	3名	1.7%
⑪日・中・韓の文化交流	13名	7.5%
⑫その他	1名	0.7%

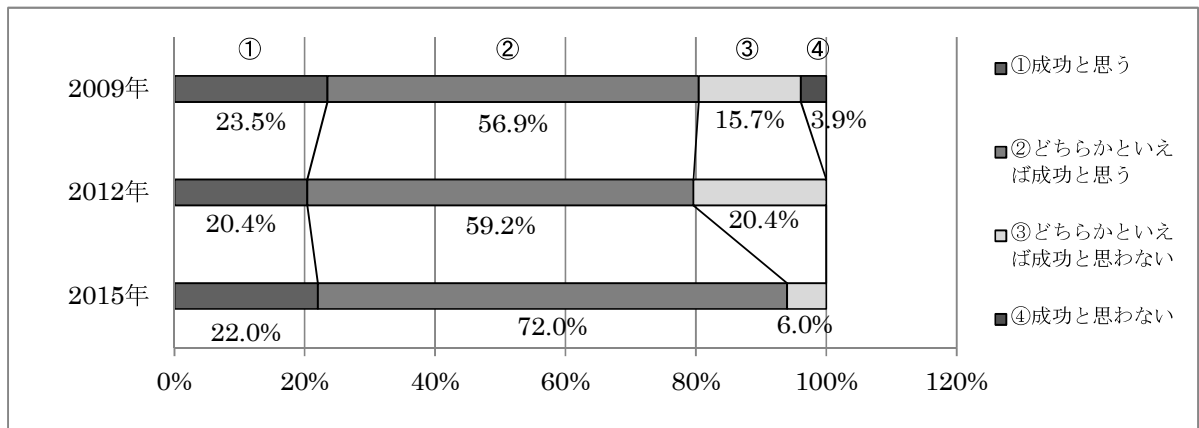


(2) 水と土の芸術祭は、成功だったと思いますか。

項目	人数	割合
①成功と思う	11名	22.0%
②どちらかといえば成功と思う	36名	72.0%
③どちらかといえば成功と思わない	3名	6.0%
④成功と思わない	0名	0%



■過去アンケート結果比較(回答数 2009:51名 2012:50名 2015:50名)



【 ① 成功と思う 】 (6件)

- ・地域の歴史文化や自然, 宝を再認識できた。地域の一体感の醸成に寄与できた。(3件)
- ・市民プロジェクトの質の向上が見られる。
- ・市民プロジェクトを企画し, 多くの方に興味関心を寄せていただいた。
- ・市民参加が楽しくなっている。参加することに意義があることが形になってきている。

【 ② どちらかといえば成功と思う 】(28件)

■情報発信・認知度 (9件)

- ・芸術祭を通して県内外にアピールでき, 認知度も高まっている。(4件)
- ・潟や各地域を会場にしたことで, 魅力を再発見し関心を持ってもらえた。(4件)
- ・まだ興味を持たない人が多すぎる。(特に若者)

#### ■交流人口の拡大（4件）

- ・芸術祭に多くの人に参加し、交流人口の拡大につながった。（2件）
- ・ふるさと旅行パックの企画は、交流人口拡大に効果があった。
- ・市民プロジェクトにより市民参加が増えた。

#### ■その他（15件）

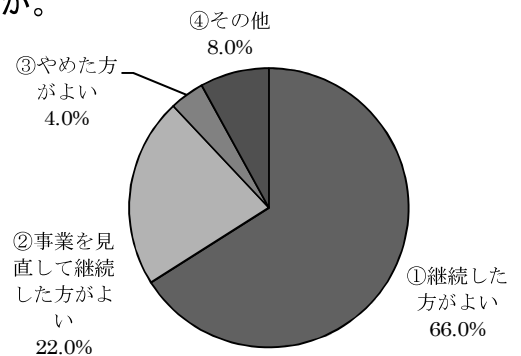
- ・潟の会場などコンパクトにして周遊しやすかった。ベースキャンプへのシャトル便実施や、会期を夏から秋にしたことにより来場者は行きやすかった。（2件）
- ・無料化やベースキャンプの設定など工夫があり、新鮮味があった。
- ・屋外の展示は天候に恵まれてよかったと思う。
- ・現代アート中心のイメージが薄らいだと思う。
- ・市民プロジェクトやこどもプロジェクトなど、新潟市のイメージアップや今後の展開に期待できると感じた。
- ・市民プロジェクト、こどもプロジェクトの企画により市民参加の機会が効果的だった。
- ・課題もあるが、それを創造的に解決していける可能性が、過去2回よりも高まっている。
- ・芸術祭を活用したまち全体での取り組みが、地域課題解決のきっかけになるという実績が作れた。
- ・地域の食の紹介などで、アートとの接点が身近なものとなった。
- ・農業において素材提供が主だったものを、食文化創造の取り組みによって農業の可能性を大いに高めた。
- ・踊り・食文化は、もともとあるポテンシャルを内なるパワーで引き上げている新潟の誇るべき文化であるという認識を持った。
- ・ベースキャンプに行き難いなどの声があった。水と土のイメージが会場には薄かったのではないか。
- ・範囲が広すぎ、他の区まで行こうと思わない（魅力が薄い）。
- ・米を全面的に題材としたものを考えてもらいたい。

#### 【③ どちらかといえば成功と思わない】(3件)

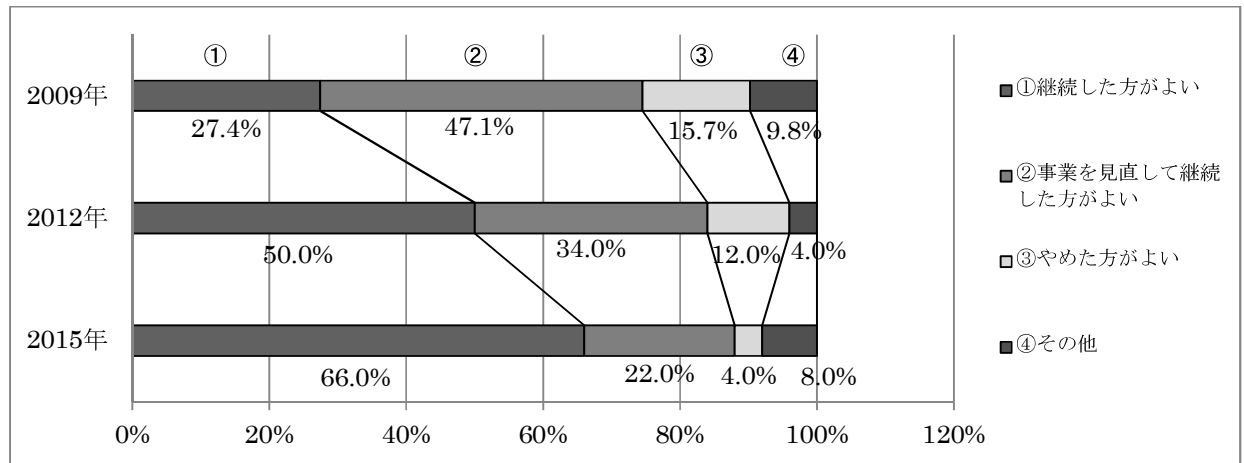
- ・新潟市内の来場者が56%と過半数を占めている。地域活性化とあわせて、交流人口の拡大をより増加させることが期待される。
- ・エリア外への情報発信や、交流人口の拡大（誘客）については不十分。
- ・回を重ねるごとにマンネリ化してきている。

(3) 水と土の芸術祭の継続開催についてどう考えますか。

項目	人数	割合
①継続した方がよい	33名	66.0%
②事業を見直して継続した方がよい	11名	22.0%
③やめた方がよい	2名	4.0%
④その他	4名	8.0%



■過去アンケート結果比較(回答数 2009:51名 2012:50名 2015:50名)



【 ① 継続したほうがよい 】(18件)

- ・住民が地元地域に認識を深め、愛着を持ってもらう機会であるため。(7件)
- ・市民に認知され始め、県内外への浸透が期待できるから。(5件)
- ・潟、食、文化の魅力を維持・発展させるため。
- ・交流人口の拡大に寄与するイベントであるため。
- ・新潟市民の一部にしか当事者意識がない。市民全体が「自分ごと」として捉えるようになるには更に継続が必要。
- ・ノウハウの蓄積などを含め、継続してこそ得られることが多いと思う。
- ・継続することに意義がある。その時だけで評価せず歴史を作ることが大切。
- ・開催回数を重ねることが必要。市民に理解してもらい、新潟市を広域なキャンバスと思い、自由闊達な表現をしてほしい。

【 ② 事業を見直して継続した方がよい 】(3件)

- ・当初の目的は達成されたと思う。次はなんだろうと楽しみにしている。
- ・旅行商品の造成については、テーマをアート、食、おもてなしに絞込み、旅行

- 会社の商品造成スケジュールに合わせた素材へ提供が必要。  
・今回は「潟」がメインであるため、会場が広範囲であり移動が大変であった。

**【③ やめた方がよい】(2件)**

- ・多額の金額が掛かるため。
- ・同県内に大きな芸術祭（大地の芸術祭）があるため。

**【④ その他】(3件)**

- ・継続を前提とした検討ではなく、これまで3回の検証と長期での目的と位置付けを明確にし、再検討すべき。開催ならば、あと何回やるのか決めた方が良い。
- ・継続については、アンケート等で市民の意見を聞いた方が良い。
- ・予算規模が大きい事から、他に優先すべき事業がないか十分協議が必要ではないか。

(4) 3で「見直して継続」を選んだ方にお聞きします。何を見直したらよいと思いますか。

**【各事業について】(22件)**

**■市民プロジェクト(3件)**

- ・市民活動の活性化に貢献しているため事業拡大すべき。
- ・スキルやポテンシャルのある市民を、プロジェクトマネジメント主体とした研修をしたうえで地域全体のディレクションをしてもらってはどうか。ただし、相談先として、地域を担うリーダーたちが一堂に会し相談しあえる場に、オブザーバーとしてプロがいたら、よりクオリティが高まるように思う。
- ・市民プロジェクトのなかには、質の高いものもあり、予算配分に反映させていた方がいいと思う。

**■こどもプロジェクト(3件)**

- ・「こども」という扱いを取り外して、「いち表現者」としての扱いをしてもいいと思う。大人以上に感性を持っていて、それを大人が感じ取る機会にもなると思う。
- ・市民活動の活性化に貢献しているため事業拡大すべき。
- ・「こどもプロジェクト」の予算を増額し、広報費・運営活動費等の縮減を図る。

**■アートプロジェクト(5件)**

- ・展示している作者同士で競い争ってみてはどうか。
- ・作品を中央区に集中させ、古町エリア、万代エリア等に分け、徒歩により周遊出来るコースを作る。まちなかを歩くことで、新潟市の再発見にも繋がる。
- ・地域の人たちと取り組む「プロジェクト」であってほしいと思う。地域と向き

合える(時間も精神も)作家の選定を望む。

- ・市民プロジェクトでできるレベルのアートプロジェクトは、市民に任せれば良いと思う。そして、市民プロジェクトのアート部門と、アートプロジェクトは同じ扱いでもいいように思う。
- ・著名なアーティストの作品を展示するよりも、市民プロジェクトのような市民参加型の事業を増やして欲しい。

#### ■パフォーマンス（1件）

- ・Noismだけでなく、他のパフォーマンスの可能性、市民のポテンシャルの引き上げも含めて、総括的なディレクションを望む。

#### ■シンポジウム（1件）

- ・アート同様、市民からの企画募集をしてはどうか。市民プロジェクトの中でも、とてもいい内容のシンポジウムが多くあった。

#### ■食おもてなし（7件）

- ・おもてなしは誰が何のためにするのかということ、市民啓発する必要がある。啓発も、行政側がすることではなく、市民側からやることだと思う。
- ・ボランティアガイドの育成。(現地での案内体制の整備, 人材育成)
- ・にいがた食の陣を夏の陣, 冬の陣として, 市内の飲食店にも協力してもらう。当日座のようなものも期間中に行う。
- ・旅行造成は, 旅行会社に対して最低半年前までに素材の提供を行う。
- ・ツアーバスも良いが料金が問題である。魅力があれば集まるのではないか。
- ・エリア外の人に分かりやすい開催地までの二次交通の整備を行う。
- ・連節バス利用で周回コースを作ってはどうか。

#### ■広報（2件）

- ・さらに広く, 多くの市民に認知される広報をすべき。
- ・パブリシティで多くマス媒体に取り上げられたが印象は薄かったように感じた。「市報にいがた」や「家族・友人・知人」が効果的であったことから, マスコミにかかる予算を減らしても良いのではないか。

#### 【その他】（4件）

- ・この時期にしかやっていないという方が, 集中して事業も行えるので, 良いのではないか。また, 来場者も集中して賑わえば市民もこんなに人が来るのか, と思い認知が広がると思う。
- ・運動資金に参加することで感心も高まるのでは。
- ・新潟の歴史や伝統をアピールする様な事業がほしい。
- ・範囲を狭めて, 1つの大きな会場で集中的に実施してはどうか。



(5) その他水と土の芸術祭について気がついた点がございましたらご記入ください。

**【各事業について】（15件）**

**■こどもプロジェクト（2件）**

- ・ワークショップ, みずつち合宿等への参加が多かったことは大変うれしく思う。今後も更なる充実を期待する。
- ・気楽に子どもたちが参加でき, その子どもたちが地域に愛着と誇りをもてるきっかけ作りとなるようなイベントにしてもらえたらと思う。

**■アートプロジェクト（3件）**

- ・アートを始め, さまざまなプロジェクトを通じ潟との親しみを感じる事ができた。
- ・港湾において, 作品を展示して頂き, 多くの方が集まったと聞いている。新潟西港の交流人口拡大に向け, 引き続き連携させてもらいたい。
- ・アート作品は, 分かりにくい場所にあったので一般の方々に, 浸透されたかどうか疑問が残る。

**■食・おもてなし（4件）**

- ・潟のカフェのキッチンカー, 地域住民のおもてなしをはじめとした新潟ならではのおもてなし企画が効果的だった。
- ・二次交通のバスが良かった。
- ・食事付1日コースのツアーバスを整備してはどうか。
- ・潟舟の体験乗船の料金が0~500円, 統一した方が良かったのではないかな。

**■広報（6件）**

- ・まだまだ市民への広報が少ないように思う。
- ・公式ガイドブックは今後も継続したほうが良いと思う。
- ・ガイドブックの完成が遅かった。
- ・スタンプラリーのハードルをもう少し下げても良いのではないかなと思う。
- ・スタンプラリーの特典であるファイルが後日郵送となったことは残念であった。
- ・作品の展示場所が分かりにくく, 看板の数も少なかった。

**【市民参加・誘客について】（3件）**

- ・多くのメニューがあり, 市内いたるところで展示, 催しがあった。特定の場所に参加者が集中しないで, じっくり参加できる工夫は良かった。
- ・ジャンルが広くなり, 参加者が増えたのではないかな。水と土の芸術祭が市民の間に定着した様に思う。
- ・まだ認知度が低いと感じる。何らかの関わりがなければ知らない人が多かった。もっと多くの方が参画できる形が望まれる。

**【その他】（5件）**

- ・文化事業は民間では実施が難しいので、今後共宜しくお願いします。
- ・イルミネーションなど夜にも楽しめるものがあったらよいと思う。
- ・広範で多岐、多様にイベント行事が行われるので、検証自体が難しい。
- ・創造都市の意義・目的について、講義を市議会向けにやってもらえないか。共通言語を共有したうえで議論したい。
- ・人手不足だったのか、職員やスタッフの方々の負担が大きかったように思う。運営体制づくりとマネジメントがうまくできていたのか気になった。

**（6）今後の東アジア文化都市及び2020年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムへの取り組みについて、ご意見がありましたらご記載ください。****【東アジア文化都市について】（2件）**

- ・東アジア文化都市間の交流の継続。
- ・東アジア文化都市の位置付けを知らない人が多いのでは。

**【東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムについて】（2件）**

- ・文化プログラムについては、単発なイベントではなく、新潟の魅力（伝統、芸能、食文化 etc）を世界に発信し、長期的に継続できるプログラムを希望する。
- ・東京オリンピックについて、新潟空港～市内観光～東京のプラン作り等、新潟誘致に向け、市民等の機運醸成を図ってもらいたい。クルーズ客船と連携できればなお良いと思う。

**【G7新潟農業大臣会合について】（1件）**

- ・今年、本市で開催される農業大臣会合に際し、「水と土の芸術祭」の歴史的意義として、低湿地帯からの脱却、これが無ければ新潟の農業、地域の発展に結びついていない事を宣伝してもらいたい。

**【全体について】（8件）**

- ・新潟市のために、市民のために、新潟の誇りのために、バラバラではなく未来を見据えた一体となった取り組みだと良いと思う。
- ・取ってつけたようなイベントやプログラムだけではなく全体のストーリーや、その中での新潟の存在感が感じられる取り組みを期待したい。
- ・食文化創造都市を幅広く普及させ市を挙げて取り組むことや、伝統・歴史をもっと大事にし、新潟の特色とは何かを問い直す。
- ・多種多様な団体の活動を活かしての取り組み。日本の文化の魅力を世界に発信できる機会として、外国人対応等にも取り組みがあっても良いと思う。
- ・子どもたちの活動の場をいかに設定するかを工夫し、ぜひ、多くの子どもたちに参加してほしい。

- ・本市が目指す文化創造都市として、先導的に「文化のバリアフリー」を行うことは重要であると思う。障がいを持つということは、単にひとつの見方の中から線を引いているだけであって、潜在能力は誰しもが持つものである。障がい者・高齢者・子どもと「社会的弱者」として特別扱いするのではなく、「いち表現者」としての扱いをする。そして、多様な市民のスキルの底上げも行い、プロに近づけていくということが、本当の意味のバリアフリーを目指す芸術祭もしくは、文化プログラムになるのではないかと思う。単に与えるだけ・人を呼び込むだけの文化プログラムの多発は、文化バブルになりかねない。何を次に繋げていくかを、最重要視してほしい。
- ・一部の人達のも物ではありません、市民が、国民全体が楽しめるように企画してもらいたい。
- ・芸術作品をもっと残して欲しい。